

## 横浜開港資料館の 上海市関係機関との 学術交流について

横浜市と上海市は友好都市関係を結んでおり、多岐にわたる交流事業が実施されている。その一環として、横浜開港資料館では、1989年度より上海市関係機関との比較都市研究を中心とする学術交流を開始した。ここで簡単に交流の経緯と展望について紹介したい。

### 学術交流の経緯

当館では横浜の歴史を東アジア全体の歴史展開の中で捉えることが必要であると考え、19世紀の中頃に開港された中国と日本の開港場の関連を重視してきた。そのため欧米での海外資料の調査を進める一方で、1987年6月

に第1回上海市資料調査、1988年12月に第2回上海市資料調査を実施した（詳細は『開港のひろば』第21号および『横浜開港資料館紀要』第7号を参照されたい）。その間に両市関係者の間で学术交流の機運が高まり、当館では横浜・上海都市形成史研究会を結成した。

1989年12月には学术交流の初回として代表団が上海市を訪れ、上海市档案馆、上海社会科学院歴史研究所、上海図書館で資料の調査・閲覧を行なうとともに、学术交流の方針について担当者との意見を交換した。また上海博物館へも表敬訪問を行なった。これを受けて昨年12月に上海市学术交流代表団が初めて当館を訪れ、意見交換のほか、横浜を中心とする史跡・類似施設の調査見学を行なった。

#### 学术交流の展望

上海市との学术交流では資料と研究の二つに重点を置き、互惠主義の立場に立って交流を進めている。資料面では横浜居留地の問題を研究する上で重要な上海租界関係の資料を中心に調査収集を進める方針である。研究面では、横浜と上海の歴史を「比較」と「関係」の二つの観点から検討したい。「比較」によってそれぞれの都市の歴史の固有性が一層明らかになり、横浜と上海の二者間の「関係」あるいは第三者を介した「関係」を追及することで、東アジア史の文脈の中で横浜の歴史を捉えることが出来ればと考えている。

伊藤 泉美・横浜開港資料館